

【2020年3月期 第1四半期決算説明会】 質疑応答概要

※説明会における主な質疑応答をご紹介します。

<日時>	2019年8月6日(火) 15:00～16:00
<出席者>	明治ホールディングス(株) 取締役常務執行役員 古田 純

Q1: 2019年度第1四半期の営業利益は9億円の増益でしたので、第2四半期の営業利益は上期計画から差し引くと7億円の減益となる計画です。第2四半期で減益となる要因としてどのようなことを見込んでいますか。

A1: 今期は始まったばかりであり、また、10月の消費増税により消費動向にどのような影響があるのか不透明な部分もありますので、上期・通期の業績見込みは変更しませんでした。従って、差し引きすると第2四半期は前年同期比マイナスの計画となりますが、第1四半期の勢いを持続させ、第2四半期以降も増収増益を目指したいと考えています。

Q2: ヨーグルトやプロバイオティクスは2019年4月からの価格改定による数量減を懸念していますが、値上げによるマイナス影響は会社予想と比べていかがでしたか。

A2: ヨーグルトやプロバイオティクスについては2019年第1四半期において数量減となりました。一方で同じく価格改定した牛乳類については順調に推移していることから、ヨーグルトやプロバイオティクスの数量減は価格改定による影響というよりは2年前から継続している下降トレンドに転じた影響が大きいのではないかと考えています。なお、第1四半期におけるヨーグルトやプロバイオティクスの数量減による利益への影響は、価格改定効果で相殺できたと考えています。

Q3: チョコレートは2019年度第1四半期は好調に推移しましたが、今後の成長の持続性をどのように見えていますか。

A3: チョコレートが第1四半期において好調に推移した背景として、GW前の出荷が好調だったことが挙げられます。また、健康というキーワードで「チョコレート効果」シリーズが好調だったことも理由として挙げられます。第2四半期については、8月は暑いので売り上げはスローダウンすると見っていますが、9月以降は新商品の発売を予定していますし、加えて「チョコレート効果」シリーズにはシニア層に根強いファンがおりますので、今後もチョコレートの売り上げは堅調に推移するものと期待しています。

Q4: ザバスはEC市場における競争環境の激化など構造的な問題により売上高は厳しい状況だと思えますが、倉敷新工場の立ち上げなどをきっかけとした挽回策はどのように考えていますか。

A4: 第1四半期のザバスの売上高は前年同期比並みという結果になりました。店頭での売り上げはシェアも高く好調に推移していますが、約40%の売上構成比を占めるEC市場での売り上げが影響していると分析しています。今後の戦略としては、倉敷の工場が今年の11月頃に稼働を始めますので、新たな商品で差別化を図りたいと考えています。また、コンビニエンスストアやスーパーで販売している「ザバスミルクプロテイン」が好調に推移しており、今期は100億円を超える大型商品に成長するのではないかと期待しています。今後は粉と飲料の両方でザバスブランドを大きく成長させていきたいと考えています。

Q5: 医薬品セグメントの海外事業は 2019 年第 1 四半期は好調に推移しましたが、牽引役となったメドライクは第 2 四半期以降も増益基調が続くと計画されていますか。

A5: 医薬品セグメントの海外事業は好調に推移しました。インド子会社のメドライクは前期にのれんの一括償却を実施したため、第 1 四半期で約 4 億の増益効果が発生しました。また、メドライクは CMO/CDMO 事業などの本業が好調に推移したことにより増収増益となり、加えて中国子会社の明治山東なども増益となりました。メドライクは今後も好調に推移すると考えています。

以上